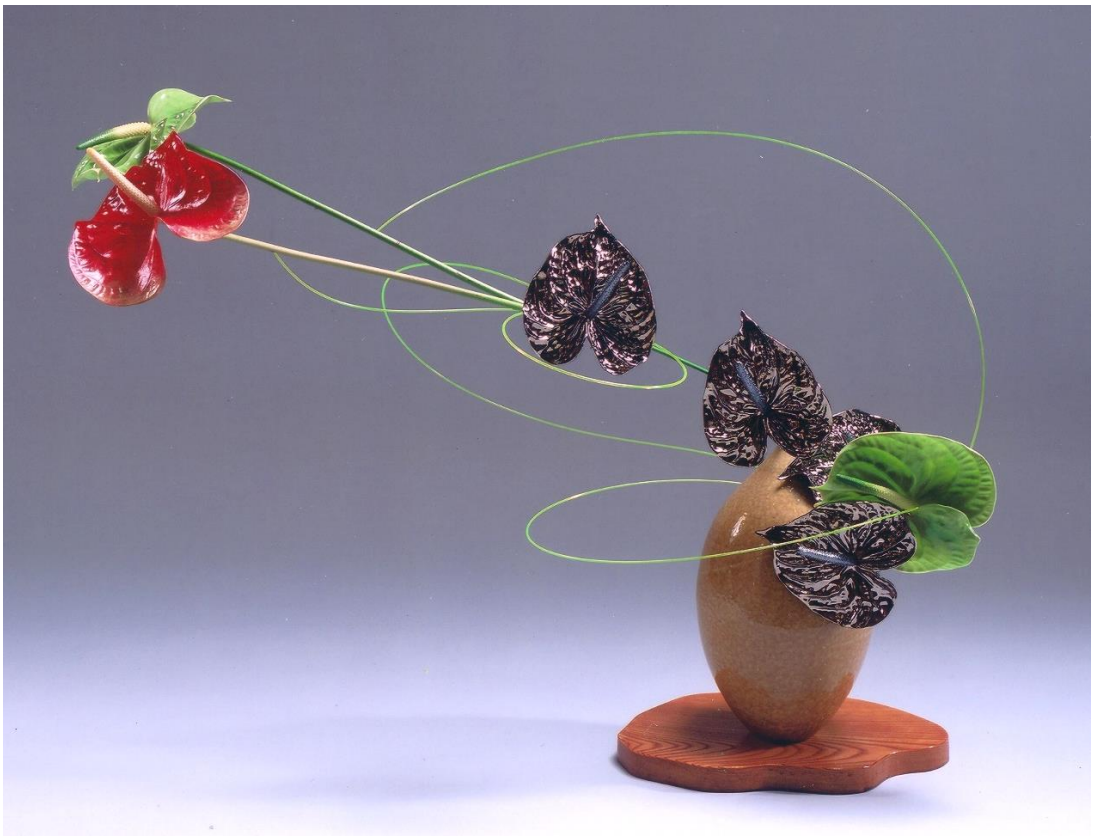
創流寛延参年

創美流華道



漆黒に佛炎苞（ぶつえんほう）は 耀（かがや）き て大紅團扇夢にし見ゆる

當流は、當家東根渡邊氏五十七代一阡二百有余年の歴史の中で四十七代當主が華之道に入る事を始まりとし、記録で残されてゐる寛延参年（西暦千七百五十年）より數へて十五代の家元を重ね二百七十年の時を傳へて參りました

その流儀の中で大切にしてゐる事が心の傳承であります 新年の初活式は歳神様と當家の祖神に花を獻ずる事に始まり、諸神、祖靈を初め流儀の礎となつた先人達を祀り傳へる事を第一にし、その節目に花を活捧げる事を道として繼承してゐます

はなと言へば、今日では草や木に咲く「花」のみに観念が固定化してゐるやうですが、葉が出て蕾が付き、花が散り實となり、種が落ちるといふこと、この一連が「はな」であります つまりは木、草、花、すべてが花であり、ひいては朽ち木までもが観念として「はな」なのであります

自然に恵まれた國土の中で、植物と神と人とが關はり合ふ中、樹木に神が宿り、神の依代（よりしろ）（神の降りてくる目印・依りどころ）として多く常盤木（ときわぎ）（常緑樹）が使はれ、神々は高きところに宿るのだからと木を立てる、同じく豊作を願ふ意として田植の時に花を立てる、花を供へ死者の靈を祀る、佛に供華することなどが後の世、器に草木を立て飾る法となつてくるのであります そしてそこからつくり花でさへも尊いものとして捧げる対象となり、鑑賞の花として飾りいける形式ができて現在につながるいけばな様式となつてくるのです

當流では、花を「生ける」ことは「活ける」として、はなを咲かせ、散らさないことが肝要とされます 何故ならそれは死生観として、花木の持つ命を人の手によつていかす、切ることは死ではなく、新たなる命を受けることであります つまり、いけられた花は單なる形としての供華でもなければ、ただの観賞用の飾花でもなく、それは大自然そのものを内包してをり、花木の持つ命を捧げそこに森羅萬象を感ぜられるとき、花をいくるといふ、いけはなとしてのいけばなが生まれ、道として日本の精神文化を繼承する花の道、華道となるのです

「神は人の敬によりて威を増し　人は神の徳によりて運を添ふ」鎌倉幕府の定めた「御成敗式目」の第一条にあります

自由花

向日葵（ひまわり）三種

脩靜庵華道訓

九世家元　脩靜庵　華鴻宗匠撰

一、いけ花は神の創造になる美しさを
　更に人の手によつて輝けるものとするのである
一、華道は人の生き方の基本である
　一致と融和がなければ人間社會もいけ花作品もなり立たない
一、たゆまない精進のみが花と人とを一つにする
一、鋏の音には年數がひゞき　鋏の錆には怠りが現はれる
一、花に聞き花の心になつてゐける
一、一花一葉がいけ花の出發點であり究極點である
一、落ち着いて手ぎはよく　素直な態度ではなを活けたい
一、活ける人の人柄が作品に現はれる
　樂しい作品は和やかな人格から生まれる

格花

萬年青（大象観）

投入花

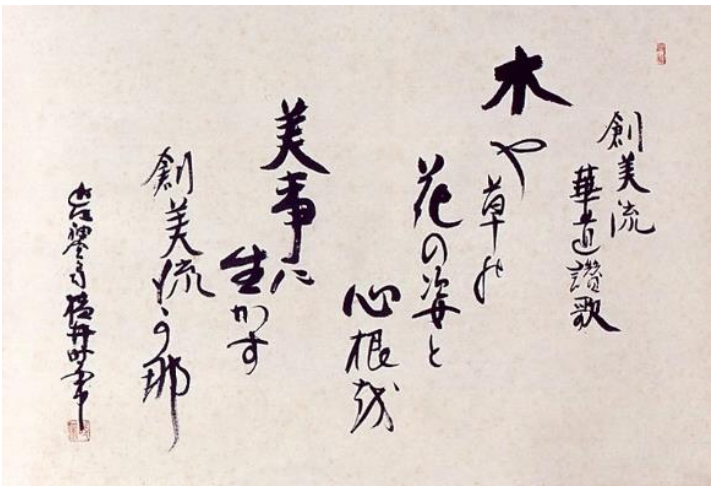
七色に乱れ咲く天つ星流る、がごと菊は開かむ

菊九種

一年の四色差し立て神無月あだなるものと神に捧げむ

現代花

南瓜（かぼちゃ）　パンリード



学びたい花のスタイルに応じ
様々なコースが選べます

◆盛花(創美流華道)
◆古典花・格花(古流脩静庵)
◆眞創フラワーアレンジメント
他に プリザーブドフラワー
ドライフラワーアレンジメント
ハーバリウムアレンジメント 等
通信教育可

飾花

寒中に春の日迎ふ伊豆の宿格子窓に赤き椿か

晒三又(脱色・着色)藪椿 グラス

盛花

小手毬 虞美人草 額紫陽花

眞創フラワーアレンジメント

カンガルーポー ブルーレースフラワー アルストロメリア 孔雀草

創流二百七十年の伝統を今に

流祖嵯峨源氏東根渡邊氏 源融公より數へて四十七代鴻雲齋宗興筆による東日本最古の瓶華圖 寛延三年六月十三日生寫之と書かれる所により、この年を創流元年とし、古流庵家と称してみたものを五十五代梅軒夫人九世家元脩靜庵華鴻によつて昭和五年に創美式と改め五十七代當主十五世家元鴻雲齋宗興、渡邊華靖が今に傳へてをります

日光東照宮御祭神 徳川家康公の大前に毎年五月十七日の春季大祭に献華之儀奉納

御鎮座四百年大祭

大前に菊一対を捧げ活く代々に傳へむ家の務めと

大織冠藤原鎌足公を祀る**談山神社**（奈良・桜井市）には毎年十一月八日に献華祭として献華之儀奉納

明治維新百五十年記念奉祝献華祭

旧官幣大社・勅祭社 天智天皇を祀る**近江神宮**（滋賀・大津市）には毎年十一月七日 御鎮座記念大祭にて献華之儀の奉納

靖國神社にては毎年不定日では有りますが、献華之儀の奉仕と共に社頭献挿華展の奉納

秋明菊（しゅうめいぎく） スプレー菊

本部華道會館にて「旧七夕會涼風七夕いけばな展」と「重陽の節句 菊の華會として「涼展」を毎年開催してをります 各地での諸団体華展へも出品し華道芸術の発信にも努め合せて會館にて初釜 雛祭茶會 観月茶會なども開かれてゐます

門跡日光山輪王寺にては、四月十九日 二十日の徳川家光公の法要にての供華之儀、廟前献華そして十月二日の天海大僧正の法要にても同様奉納

日光山開創一千二百五拾年慶讃法要

教場

創美流華道會館

東京都東久留米市前澤５丁目７番27號　電話 042（471）4022（代）

家元認定教場の御案内

ホームページを御覧下さい　http://www.sobiryu.jp　E-mail soubi@car.ocn.ne.jp

青森・新潟・長野・群馬・埼玉（熊谷・岩槻）・山梨・千葉・神奈川（戸塚・川崎）・東京（品川・練馬・池袋・八王子・小平・調布・西東京・瑞穂）・滋賀・京都・奈良・大阪・福井 等

紀元 2679 年 令和元年度版